

PMシンポジウム2019速報

2019年9月25日

日本プロジェクトマネジメント協会
副理事長 佐藤 義男

PMシンポジウム2019開催概要

- 開催日時:2019年9月5日(木)<シンポジウム>
2019年9月6日(金)<セミナー・ワークショップ>
- 主催:特定非営利活動法人 日本プロジェクトマネジメント協会
(PMAJ)
- 後援:経済産業省、独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)、
独立行政法人 情報処理推進機構(IPA)、
一般財団法人エンジニアリング協会(ENAA)
- 大会参加者は過去最大
総数2,802名(昨年2,798名)
- 豊富なプログラム構成(合計77講演)
1日目は、2つの基調講演、3つの特別講演、実践的な32のトラック講演
(ICT、P2M、エンジ・建設・公共、製造・ヘルスケア・農業、金融・流通・
サービス、人材育成、ビジネス創出、出展企業セッション)。
2日目は5つの特別講演、25のセッション講演、5つの会員活動講演、5つ
のPMマイスター講演。

特 徴

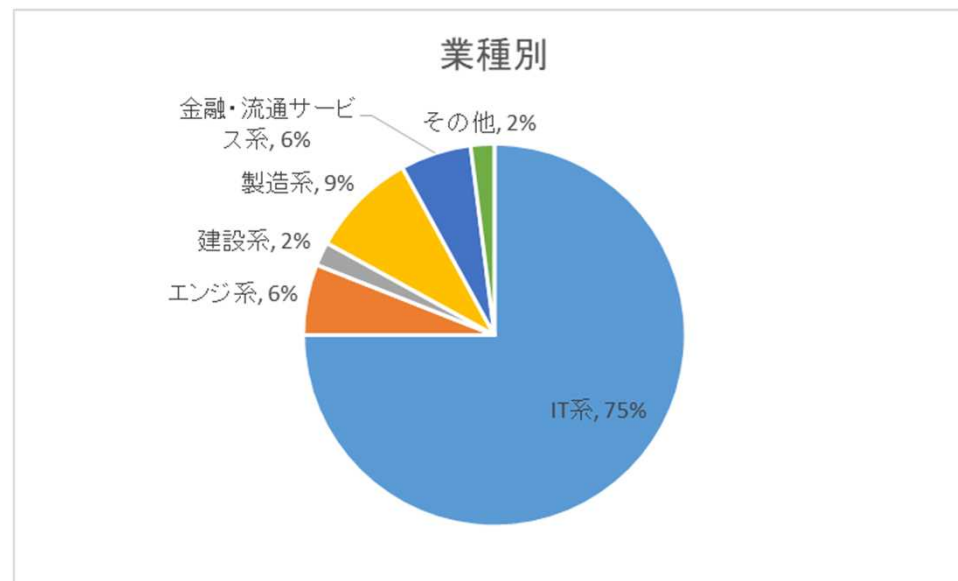
- シンポジウムのテーマ「競争優位のビジネス創出」
ビジネスのデジタル化に対応し企業が生き残るために、自らビジネス・イノベーションを創出して競争優位を獲得し、新たな機会を生み出してそれを支えるプログラムマネジメント力が必要である。
- 基調講演・特別講演
1日目：
 - 基調講演1「好き嫌いの復権」、楠木 建氏／一橋大学 大学院経営管理研究科 教授
 - 基調講演2「AI、ロボット、IoTを社会に活かす」、富田直美氏／hapi-robot 代表取締役社長
 - 特別講演1「行動経済学とプロジェクトマネジメント」、星野崇宏氏／慶応義塾大学 経済学部 教授
 - 特別講演2「画期的なイノベーションのための組織化」、川上智子氏／早稲田大学 経営管理研究科 教授
 - 特別講演3「創業500年、止まった時計でいる覚悟」、白樫政孝氏／剣菱酒造 代表取締役社長

2日日:

- 特別講演1「企業のデジタル革新を支えるエンタープライズアジャイル」、中村記章氏／富士通
- 特別講演2「新しい価値を生む方法論としてのForesight Creation」、松波晴人氏／大阪ガス
- 特別講演3「日本に劇場街を」、竹中雅人氏／松竹 専務取締役
- 特別講演4「今日60分でマスターする、AI、ロボット・IoTの著作権と法務」、福井健策／骨董通り法律事務所 代表パートナー
- 特別講演5「モノづくりのトヨタ生産方式(TPS)とLean/Agile方式」、黒岩 恵／(一社)持続可能なモノづくり・人づくり支援協会 代表

- 1日目は特別講演、P2Mトラックが人気
- 「行動経済学とプロジェクトマネジメント」、「創業500年、止まった時計でいる覚悟」セッションが盛況
- 人間系スキルとアジャイル開発のセッションが増加
- PMマイスター・トラックが盛況
- ボランティア主体の企画と運営(延べ201名)

- 参加者プロフィール



業界別ではIT業界が多い

会場風景



会場受付



開会時会場風景

開会のご挨拶



加藤理事長(PMAJ)



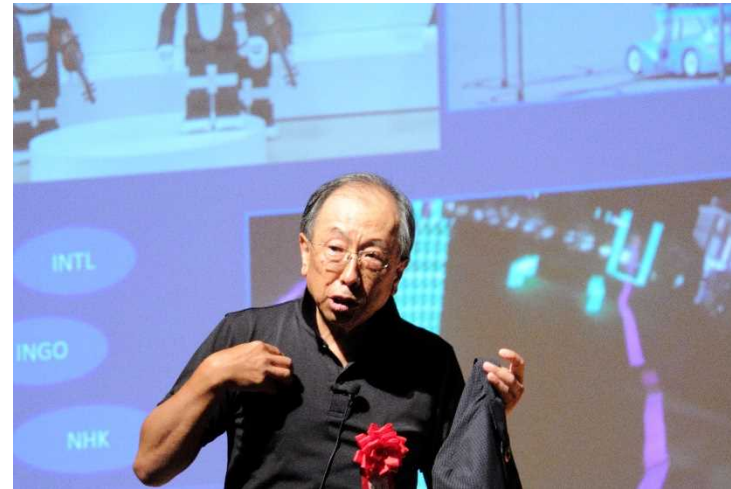
笠井室長(METI)

基調講演



楠木教授(一橋大学)

持続的な競争優位の観点から、「良し悪し」で割り切れない「好き嫌い」という価値基準の重要性について、ZARAとユニクロの戦略を例に比較・解説した。仕事でも「好き嫌い」を考えるべき、と述べた。



富田社長(hapi-robot)

ハウステンボスにおけるロボット事業の立役者として、人を幸せにするテクノロジーの使い方(技術立国を破壊せよ、経験すること・考えること、人のやらないことをやる、目的にフォーカスする)を力説した。

特別講演(1日目)



星野教授(慶応義塾大学)

人間行動の理論的側面の理解(人を動かす理論)をマーケティングに活用(人の購買行動)、マネジメントに活用(マネジメント・スキル)した事例を説明した。



白樫社長(剣菱酒造)

家訓「止まった時計でいろ」を守る仕組み作り(木製の酒造用道具の制作、米の検査機関の設立、職人の育成などのプロジェクト)を解説した。さらに経営の結論として、「まじめでないと生き残れない」と述べた。

懇親会



表彰式では、4人の方が表彰された。

- ・優秀貢献賞：濱 久人氏(彩成コンサルティング)
- ・優秀貢献賞：藤澤正則氏(デリア食品)
- ・優秀貢献賞：森川勇治氏(ウエップアイ)
- ・PMAJ特別賞：岸良裕司氏(ゴールドラット・ジャパン)